１１月１５日(土)２時から鶴瀬コミュニティ―ホールにて開催。８６名の方が参加されました。

「不登校から立ち直りを考えるシンポジウム」次第

１　あいさつ　　小山健次郎　ＮＰＯ富士見市民大学理事長

２　第１部（１４：０３～１５：１０）

　① 矢部美穂氏の講演　３０分

　　コメンテーター：　ケーシー松原氏（アストライアの会代表）

　② 卒室生による体験談３０分（約１０分＊３人）

＜休憩１０分＞

３　第２部（１５：２０～１６：２０）

　① 矢部美穂氏と卒室生との対談

　　進行：　木津秀美氏（教育相談室教育相談専門員）、ケーシー松原氏

　　「立ち直るきっかけ」について語り合う

　② 質疑応答

　③ 謝辞　内村幸一郎　教育相談室室長事務代理

４　閉会

※卒室生・・・適応指導教室＜あすなろ＞の卒業生

当シンポジウムは、富士見市においては「広報ふじみ１０月号」で案内されました。また開催日の前日の毎日新聞にインフォメーションとして知らされ、近隣の市町村からも、多くの方が参加されました。

毎日新聞

2014年(平成26年)11月14日(金)

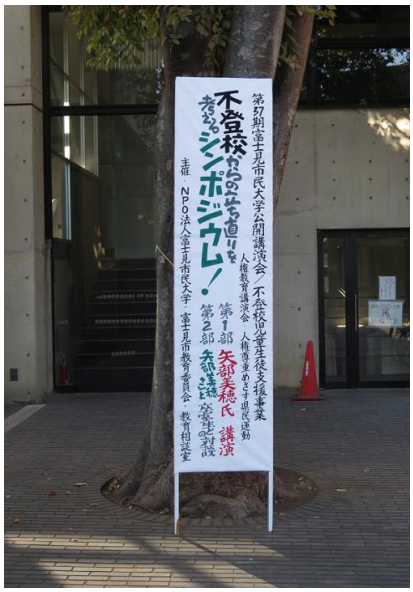
●不登校からの立ち直りを考えるシンポジウム　15日14～16時、富士見市羽沢の鶴瀬コミュニティセンターホール。不登校に悩む保護者に向け、複雑な家庭事情などで悩んだ女優の矢部美穂さんが芸能界にチャレンジし自己変革した体験談を含めた講演と適応指導教室「あすなろ」卒室正との対談。入場無料。☎049・251・1140同館。

シンポジウムでの貴重な話、意見などがあり、この場に教育関係者が多く参加されていたならば非常にうれしいなと思いましたが、どうだったでしょうか？

以下、シンポジウムのスナップ写真です。

なお、プライバシーから卒室生の名前、写真は割愛させて頂きました。

＜看板　と　講演舞台全景＞



☆あいさつ　w/手話

☆矢部美穂氏の講演　　w/手話

矢部美穂氏プロフィール
１９９２年雑誌コンテストでグランプリ受賞。芸能界入り。以降、グラビアを中心にバラエティ番組等で活躍。現在はドラマ、舞台、写真集など幅広く活動を続ける。

上記のプロフィールであるが、矢部菌と呼ばれた悩み多き少女時代。複雑な家庭の事情。いかに芸能界にチャレンジし自己変革をしていったかなど・・・
コメンテーターの問に対してその思いをぶつける。やはり、生の声を聞くと迫力がある。

グランプリ受賞においても人の出会いが大きく、その出会いも執念ともいえる目標へのチャレンジ意欲が引き寄せたように思える。また、一人の人間として接してくれる人の存在の有り難さも伝わってきた。

☆卒室生による体験談　　w/手話

３人の卒室生（現在は立派な社会人）が不登校になった理由、立ち直るきっかけなど、自己紹介を兼ねて、持ち時間１０分程度で述べる。

＜進行役＞

☆矢部美穂氏と卒室生との対談　　w/手話

・３人の卒室生が順番に、矢部美穂氏に質問し、それに対して、回答する。

・今度は、矢部美穂氏が３人に質問し、卒室生が回答する。

＜矢部美穂氏が３人と対談スナップ＞

・そして、参加者からの質問・・・２人からの質問あり

　対談による質疑応答の感想としては
不登校のキッカケは、いろいろな理由はあるが交通事故にあったと同じ。誰もがその偶然性をもっている。立ち直るキッカケは、良い相談相手があったことと、自分自身があるタイミングで強い目標が持てたことと思える。そして、人の有り難さについて、３人とも言っていたのが印象的であった。

☆謝辞　　w/手話

◆当シンポジウムに参加して

システムといわれるものは、通常の流れがあり、ある確率で様々な異例の流れが生じる。その情報をキャッチしたあとには、通常の流れに戻す制御機能を備える必要がある。この制御機能がないと当然のことながら安全のシステム運用が出来ない。

不登校という偶然に交通事故にあったときの制御機能として、教育相談室が存在することは非常に意味のあることであり、しかも卒室生が当シンポジウムで立派に主張・発言されていることは大変嬉しいことでした。今後、もっと教育相談室の認知のための広報活動も必要と思われます。

正直なところ、３人の卒室生のシンポジウム前の不安と心配そうな顔の表情と、シンポジウムを終えた後の達成・満足感の顔の表情の違いをスナップ写真で開示したいぐらいの思いです。

以上

シンポジウム後、サイン会のスナップ

多数の参加　及び　アンケート
ありがとうございました